

中学校第2学年

(5) 英語

分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの.....
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの.....
- 3 1と2の間にあるもの

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~ 平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国 ~ 平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。

(5) 英語

調査問題の構成とねらい

- ・ 4つの大問で構成し、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4領域を問う問題とした。
- ・ 学習指導要領の目標及び内容に基づき、教科書での学習事項の定着度をみる問題とした。
- ・ 知識・理解だけでなく、思考力、判断力及び表現力も含めて、学習達成状況を総合的にみることが出来る問題とした。

平均点 69.4点

小問ごとの内容・ねらい

大問	領域	小問	観点	内容・ねらい	大問別 正答率	小問別 正答率	予 想 正答率	評価	比較
1	聞くこと	1	(1) 理解	英文を聞き、絵を説明する英文を聞き取ることができる。	86.6	93.4	90		H 1 5
			(2) 理解	英文を聞き、絵を説明する英文を聞き取ることができる。		92.1	90		
			(3) 理解	英文を聞き、絵を説明する英文を聞き取ることができる。		70.7	60		H 1 5
			(4) 理解	英文を聞き、絵を説明する英文を聞き取ることができる。		90.3	90		
		2	(1) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えとして適切な絵を選ぶことができる。		98.2	90		
			(2) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えとして適切な絵を選ぶことができる。		87.4	90		
			(3) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えとして適切な絵を選ぶことができる。		98.5	90		
			(4) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えとして適切な絵を選ぶことができる。		94.6	90		
		3	(1) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えを選ぶことができる。		85.6	80		
			(2) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えを選ぶことができる。		76.4	80		
			(3) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えを選ぶことができる。		63.3	80		
			(4) 理解	対話を聞き、対話の内容に関する質問の答えを選ぶことができる。		88.7	80		
2	話すこと	1	(1) 表現	絵の内容に関する質問の答えとして適切な表現を選ぶことができる。	83.2	77.3	80		
			(2) 表現	絵の内容に関する質問の答えとして適切な表現を選ぶことができる。		56.9	80		
			(3) 表現	絵の内容に関する質問の答えとして適切な表現を選ぶことができる。		94.2	80		
			(4) 表現	絵の内容に関する質問の答えとして適切な表現を選ぶことができる。		97.1	80		
			(5) 表現	絵の内容に関する質問の答えとして適切な表現を選ぶことができる。		73.2	80		
		2	(1) 表現	対話文を読み、場面に合う表現を選ぶことができる。		91.8	80		全国
			(2) 表現	対話文を読み、場面に合う表現を選ぶことができる。		94.7	55		
			(3) 表現	対話文を読み、場面に合う表現を選ぶことができる。		66.4	55		H 1 5
			(4) 表現	対話文を読み、場面に合う表現を選ぶことができる。		94.6	80		
			(5) 表現	対話文を読み、場面に合う表現を選ぶことができる。		67.6	70		
		3	(1) 表現	提示された状況に合う、適切な表現を選ぶことができる。		96.6	80		
			(2) 表現	提示された状況に合う、適切な表現を選ぶことができる。		85.9	70		
(3) 表現	提示された状況に合う、適切な表現を選ぶことができる。		86.9	70		H 1 5			
(4) 表現	提示された状況に合う、適切な表現を選ぶことができる。		82.0	70					
3	書くこと	1	(1) 言語	日常生活に関わる基本的な語を書くことができる。	57.2	38.5	60		
			(2) 言語	日常生活に関わる基本的な語を書くことができる。		37.9	60		
			(3) 言語	日常生活に関わる基本的な語を書くことができる。		81.7	70		
		2	(1) 表現	与えられた語を並べかえ、適切な英文を完成することができる。		86.4	70		
			(2) 表現	与えられた語を並べかえ、適切な英文を完成することができる。		63.2	50		H 1 5
			(3) 表現	与えられた語を並べかえ、適切な英文を完成することができる。		92.4	70		
			(4) 表現	与えられた語を並べかえ、適切な英文を完成することができる。		63.8	60		
		3	(1) 表現	友だちに関する指示された内容の紹介文を英文で答えることができる。		25.2	50		全国
			(2) 表現	友だちに関する指示された内容の紹介文を英文で答えることができる。		25.4	50		全国
4	読むこと	1	(1) 言語	英文の内容を読み取り、空所に入る適切な語を選ぶことができる。	67.0	75.5	50		
			(2) 言語	英文の内容を読み取り、空所に入る適切な語を選ぶことができる。		82.2	50		
			(3) 言語	英文の内容を読み取り、空所に入る適切な語を選ぶことができる。		77.4	50		
			(4) 言語	英文の内容を読み取り、空所に入る適切な語を選ぶことができる。		19.8	60		
		2	(1) 理解	メール文を読み、適切な内容を選ぶことができる。正答(ウ)		87.5	70		
			(2) 理解	メール文を読み、適切な内容を選ぶことができる。正答(オ)		91.9	70		
		3	(1) 理解	メール文を読み、その内容に関する質問について答えることができる。(自販機)		42.5	60		
			(2) 理解	メール文を読み、その内容に関する質問について答えることができる。(車の運転)		59.8	60		
			(1) 理解	対話文を読んで、その内容に関する質問について答えることができる。		84.3	70		
3	(2) 理解	対話文を読んで、適切な内容を選ぶことができる。	51.5	60					
	(3) 理解	対話文を読んで、その内容に関する質問について適切なものを選ぶことができる。	64.4	60					

* 観点 ・ 理解(理解の能力) ・ 表現(表現の能力) ・ 言語(言語や文化に関する知識・理解)

1 正答率 (86.6%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)	
1	(1)	ウ	93.4	H15 96.8 類似	ア(3.6) イ(3.0)
	(2)	イ	92.1		ア(3.8) ウ(2.8)
	(3)	ア	70.7	H15 62.0 類似	ウ(12.4) イ(4.8)
	(4)	イ	90.3		ウ(6.8) ア(1.8)
2	(1)	ウ	98.2		イ(0.4) 無解答(0.2)
	(2)	ア	87.4		ウ(8.8) イ(2.6)
	(3)	イ	98.5		ア(1.2) ウ(0.2)
	(4)	ウ	94.6		ア(4.0) イ(1.2)
3	(1)	ア	85.6		イ(9.8) ウ(4.6)
	(2)	イ	76.4		ウ(7.6) ア(4.0)
	(3)	ア	63.3		イ(17.8) ウ(3.6)
	(4)	ウ	88.7		ア(4.8) イ(2.8)

考察

英語を聞く力をみる問題である。問1では、英文を聞き、与えられた絵を説明する英文の内容を聞き取る力を問うた。問2は、短い対話を聞いたあとで、対話の内容に関する質問を聞き、答えとして適切な絵を選ばせる問題であり、対話の内容と質問の内容を聞き取る力を問うた。問3は、やや長い対話を聞き、問題用紙に書かれた日本語の質問に対する答えとして適切なものを選ばせる問題であり、対話の概要を聞き取る力を問うた。

問1の(3) between, 問2の(2) under など、位置関係を示す語の聞き取る力を問う問題の正答率が他の問題に比べるとやや低い。問1の(3) between は前年度との比較の問題であり、前回より8.7ポイント上昇している。位置関係を表すものを含め、前置詞の用い方に関する指導が、語のみの指導になっている傾向がある。句や文として提示しながら実際の場面を参考にさせるなど、まとまりのある表現を用いての指導や視覚的に提示する指導が十分になされていない実態がうかがえる。また、問1の(1)は経年比較の問題であったが、3.4ポイント下がったものの、93.4%の正答率であり、動詞cleanや現在進行形の表現に慣れていると考えられる。問2の(1),(3),(4)は対話を聞いて、場面を表す絵を選ぶ問題であるが、正答率がそれぞれ98.2%、98.5%、94.6%と非常に高かった。それぞれ、対話中に出てくる English, Orange juice 及び window などの語が正確に聞き取れている。このことは、ふだんの指導を通して基本的な語の音声に慣れているためだと思われる。問3の(3)は正答率が63.6%と、1の中で最も低く、イ(tennis)と答えた生徒が17.8%と多かった。これは対話の内容をつかんでいく際に、swimming の聞き取りが十分にできていないためと思われる。問3の(2)の正答率が76.4%と1の中では低かったのは、登場人物までは理解できたものの、本文の内容を十分に理解できていないためと考えられる。

そこで、指導に当たっては、前置詞の指導を行う際、語だけの指導で終わらないようにし、既習の語を用いた句や文を提示することが大切である。同時に、生徒が理解しやすいように、実際の場面を表す絵などの視覚的な教材を取り入れて、句などのまとまりをもった表現で指導していく必要がある。また、対話の内容を理解させる指導を行う際、対話における内容をつかむために、重要な語に気付かせる活動が必要である。日頃から聞き取りの視点を示し、視点を意識した聞き取りの活動が行えるようにし、漫然と聞かせるだけの指導で終わらないように留意する必要がある。さらに、短い文からまとまりのある文章へと段階を踏んで量を増やしていき、その内容や概要を日本語または簡単な英語でまとめさせる活動へと発展させていくことが大切である。

2 正答率 (83.2%)

問題番号	標準解答	正答率 (%)	比較 (%)	誤答例 (%)	
1	(1)	イ	77.3		ア(6.2) ウ(0.6)
	(2)	ウ	56.9		イ(13.4) ア(11.2)
	(3)	ウ	94.2		ア(4.0)
	(4)	ア	97.1		
	(5)	イ	73.2		ウ(16.2) ア(3.0)
2	(1)	ウ	91.8	全国80.9 類似	イ(3.8) ア(2.4)
	(2)	ア	94.7		
	(3)	ア	66.4	H15 57.6 類似	ウ(14.8) イ(5.6)
	(4)	イ	94.6		ウ(5.0)
	(5)	イ	67.6		ア(17.8) ウ(3.2)
3	(1)	ウ	96.6		ア(3.2)
	(2)	イ	85.9		ア(9.6) ウ(3.4)
	(3)	ア	86.9	H15 24.0 同一	ウ(5.4) イ(5.2)
	(4)	ア	82.0		イ(12.0) ウ(1.8)

考察

英語を話す力をみる問題である。問1では、与えられた絵の内容に関する英文の質問に対して、適切に答える力を問うた。問2は、短い対話文を読んで、対話文中の空欄に当てはまる表現を考えさせる問題であり、自然な対話を行うことができる力を問うた。問3は、指示された状況において、どのように英語で表現するのが適切であるかを考えさせる問題であり、状況を踏まえて適切な表現で英語を話すことができる力を問うた。

問1の(2)は、正答率が56.9%と、2の中で最も低い正答率であった。イ(They are three.)やア(Yes, there are.)と答えている生徒が、それぞれ13.4%、11.2%と目立つ。これは、How many ~ are there ~?を用いた英語の応答に日頃慣れていないためと考えられる。問2の(1)は、全国との比較をみる問題であるが、正答率が91.8%と、全国に比べて10.9ポイント高い。普段の授業で自然なあいさつを行う場を設定したり、ALTの訪問などを利用して、初対面のあいさつで用いる表現に慣れ親しませたりしているためだと考えられる。(3)は、昨年度との比較をみる問題であるが、昨年度に比べ正答率が8.8ポイント伸びている。店など言語の使用場面を取り入れ、生徒が実際に英語を話す学習活動が行われつつあるためと考える。(5)に関しては、正答率が67.6%とやや低く、ア(Yes, I will.)と答えた生徒が17.8%と多く見られた。これは、空欄の前後をよく考えず、空欄の前のみで判断したり、willで聞かれたらwillで答えるものだと思いきりしたためだと考えられる。問3の(3)も昨年度との比較をみる問題であるが、正答率が86.9%と、昨年度に比べ、62.9ポイント上昇した。これは、昨年度が英作文形式の出題であったのに対して、今年度は選択式の出題であったことによるものと考えられる。

そこで、指導に当たっては、適切な英語での応答が行えるようにするために、How many ~?など、疑問詞を用いた英問英答などに日頃から慣れさせておく必要がある。例えば、授業の冒頭で、疑問詞を用いながら、個に応じた英語の質問を行い、英語で答えさせることに慣れさせていくのも効果的である。また、教科書の本文や教師や生徒が話した英語の内容について、確認させる活動を英問英答の形式で行い、内容が正しいかそうでないかばかりでなく、適切な応答の仕方の経験を徐々に積み上げていくことも大切である。一方、場面に即した自然な対話が行えるようにするために、言語の使用場面を考慮した設定の中で、対話の活動を行うことは大切なことである。しかし、問答が機械的に暗記して繰り返すだけにとどまらないように、予想される反応を選択して対話の内容を変化に富むものにしていきながら、臨機応変に対話を続けていく力を身に付けさせる必要がある。

3 正答率 (57.2%)

問題番号	標準解答	正答率 (%)	比較 (%)	誤答例 (%)
1	(1) white	38.5		whait(2.8) write(1.8) where(1.6) waite(1.0) 無解答(28.2)
	(2) fall	37.9		from(2.0) fool(2.0) foll(1.8) foul(1.2) 無解答(25.0)
	(3) Friday	81.7		Fryday(2.0) father(0.4) 無解答(6.0)
2	(1) How is the weather today?	86.4		How the weather is today?(5.4) How weather is the today?(1.2)
	(2) You must do your homework.	63.2	H15 46.0 類似	Do you must your homework?(14.2) You must your homework do.(1.4)
	(3) Shall we go to the baseball game?	92.4		We shall go to the baseball game.(1.8) We shall go to.(1.4)
	(4) What time do you have breakfast?	63.8		What do you have time breakfast?(9.6) What do you have breakfast time?(4.6)
3	(1) Mary came to Japan last year.	25.2	全国57.6 類似	Mary is come to Japan last year.(1.4) She is went to Japanese one years ago. (1.2) 無解答(25.2)
	(2) She walks to school.	25.4	全国53.4 類似	Mary walk to school.(3.6) Walk to school.(1.2) 無解答(20.4)

考察

主として、英語を書く力をみる問題である。

問1では、与えられた語を手がかりに、関連のある語を正確に書くことができるか、言語に関する知識を基本的な語について問うた。問2は、日本語で示された内容を表せるように、与えられた語句を並べかえて、適切な英文を完成する問題であり、文型や文法事項などの言語材料を適切に用いて英文を構成する力を問うた。問3では、友だちに関する紹介文を、与えられた条件に従って、英語で書く力を問うた。

日常生活に関する基本的な語を書いて答える問1の(1)・(2)については、正答率がそれぞれ、38.5%、37.9%と、かなり低くなっている。逆に、無解答の率がそれぞれ、28.2%、25.0%と高い。誤答例で示してあるような誤答を含め、様々なスペルミスが見られたが、語を正確に覚えていないことが明瞭である。既習の語を繰り返し用いることをしなかったり、基本的な語を書かせる場面の設定や課題の提示が十分に行われていなかったりしていることが原因であると思われる。問2の(2)は前年度との比較の問題であるが、昨年度に比べ、正答率が17ポイント上がっている。must など助動詞を使った表現を授業の中でよく用いるなど、生徒がその使い方に慣れる手立てが取られつつあると思われる。一方、Do you must ~?といった誤答率が14.2%も見られることから、do が一般動詞として用いられる英文に日頃から親しんでいない実態もうかがえる。また、(1)の天気をたずねる表現や(3)のShall we ~?を使って人を誘う表現については、あいさつで用いたり、対話文中に取り入れたりすることで、よく理解できていると思われる。(4)のWhat time ~?を用いて時間を問う表現の正答率が63.8%と、(1)や(3)に比べてあまり高くないのは、What do you have ~?といった誤答例が示しているように、疑問詞を用いた様々な表現を用いる指導が十分になされていないためであると思われる。

問3の(1)・(2)は、ともに全国との比較の問題であるが、全国の正答率に比べ、正答率がそれぞれ、25.2%、25.4%と、大変低く、逆に無解答の率がそれぞれ、25.2%、20.4%と高い。書くことを苦手とする生徒が多くいると考えられるが、語を書いたり、基本文を書いたりする活動も含め、英語を書かせる指導が不足していることが原因であると思われる。そこで、指導に当たっては、基本的な語が正確に書けるようにするために、語を書かせる場面を設けたり、精選した基本的な語を家庭学習等で書かせたりすることが大切である。その際、小テストを計画的・継続的に実施し、実施が終わるごとにフラッシュカード等を用いながら音声や意味の確認を行う活動を取り入れていくことが望ましい。また、do など複数の意味や働きをもつ語の指導や、What time ~?など疑問詞が含まれる多様な表現の指導においては、日頃の授業の中で生徒が聞いたり、答えたりする場面を取り入れることで、その使い方に慣れさせることが必要である。例えば、疑問詞を用いた様々な表現は、授業の冒頭で個に応じたあいさつを行う

場面でも、計画的な指導が十分可能である。さらに、与えられた状況を説明するなど、既習事項を用いて英文を書かせる指導においては、語を書かせる場面を設けたり、精選した基本的な語を家庭学習等で書かせたりすることを土台にしながら、授業の終末などで授業で用いた新出の表現や生徒が対話の活動等で実際に使った表現を書かせることが大切である。一般的に、英文を書くことについては、他の活動に比べて個人差が大きいことから、書かせる内容を個人で選択させたり、興味のあることを中心に書かせたりするなど、個々の生徒の実態に応じて段階的に指導していくことが望まれる。

4 正答率 (67.0%)

問題番号	標準解答	正答率 (%)	誤答例 (%)
1	(1) オ	75.5	ウ(6.4) エ(2.2) キ(2.2)
	(2) ク	82.2	エ(3.8) カ(3.4) ウ(3.2)
	(3) キ	77.4	イ(7.0) カ(2.2) エ(2.0)
	(4) カ	19.8	ア(16.8) イ(9.8) オ(6.8)
2	(1) ウ	87.5	ア(6.4) イ(4.2) エ(4.0)
	オ	91.9	
	(2) 自動販売機があまりないことと高校生〔のトム〕が車を運ぶこと	42.5	自販機がなかったこと(4.4) 色々な自販機がある。(2.0) 無解答(28.2)
(2) 高校生〔のトム〕が車を運ぶこと	59.8	トムが車で学校へ行っていること(1.0) 無解答(27.2)	
3	(1) 〔中国にいる〕妹(姉)に〔誕生日の〕手紙を送るため	84.3	手紙を送るため(3.6) 手紙を送りたかった。(1.2) 日曜日(は妹(姉)の誕生日だから(1.2) 手紙を出すために行きたかった。(1.0) 無解答(8.0)
	(2) ウ	51.5	イ(16.4) エ(11.6) ア(2.4)
	(3) B	64.4	C(9.4) E(5.2) A(4.6) D(4.6)

考察

主として、英語を読む力をみる問題である。問1は、与えられた短い英文の内容を読み取り、空欄に入る適切な語を選択する問題であり、基本的な語の用い方に関する知識を問うた。問2は、メール文を読み、その内容について適切な内容を選んだり、与えられた問いに日本語で答えたりする問題であり、初歩的な英文の内容を正確に読み取る力を問うた。問3は、対話文を読んで、その内容に関する日本語の質問に答えたり、適切な内容を選択したりする問題であり、初歩的な英語が用いられた対話文の内容を読み取る力を問うた。

問1は(4)を除き、全体的に高い正答率であった。短い英文における基本的な語の用い方や意味を理解することが、日頃の指導を通して、おおむね身に付いていると言える。しかし、(1)では、like の使い方が適切でなかったり、(3)では、単数形と複数形の使い分けが適切でなかったりするなど、動詞や代名詞の理解が不十分な誤答も見られる。また、(4)の正答率が19.8%と低い結果となっているが、「持っている」という意味以外に、動詞 have の様々な表現に、日頃十分慣れていないためであると思われる。問2の(1)については、高い正答率であり、メール文の内容がよく理解できている。選択肢の内容を本文と照らして確認する際、本文で用いられている語や英文の意味が理解できた結果であると思われる。しかし、(2)の問いのように具体的な内容を自分で考えて答える問題の正答率が42.5%及び59.8%と低い。無解答もそれぞれ28.2%及び27.2%と高い。内容はおおむね理解できていても、代名詞 that の示している内容が具体的に何かを考えながら、本文を細かく読み取る力が不足していると言える。問3の(1)については、正答率が84.3%と高いのに対し、(2)では正答率が51.5%と低い。(1)も(2)も、ともに対話文の内容について問うた問題であるが、(2)では take の意味を正しく理解できていないために、適切に解答できなかったと思われる。また、China と Canada を勘違いして答えてしまった誤答も目立つ。また、(3)については、Cを選んだ誤答が9.4%と目立つ。これは、文中の You can see it on your left. が十分理解できなかったものと思われる。特に、left の意味を理解していないことが原因であると思われる。

そこで、指導に当たっては、英文の内容を正しく読み取ることにつながる語の適切な用い方を指導する際、既習の語をはじめ、新出の語の指導を徹底する必要がある。3でも触れたように、語の小テストを計画的・継続的に実施したり、フラッシュカード等を用いながら音声や意味の確認を行ったりする活動を取り入れていくべきである。中でも、like や have のように、多義性をもつ語については、文で提示することにより、その使い方や意味の違いを明確に指導

していきたい。これらのことは、問3のような対話文の内容を正確に理解させる上でも大切な活動である。また、英文の内容を具体的に理解させるために、thatなどの代名詞が表している内容を正確に読み取らせる指導が大切である。例えば、教科書の本文の内容を確認させる際、英文の意味だけの確認で終わることがないように、代名詞の表す内容を問う発問を取り入れるのも一つの方法である。読み物に関する教材に触れる機会があまり多くない場合でも、対話文の教材の中から代名詞の表す内容を具体的に答えさせたり、リスニングの指導において、具体的な内容を答えさせたりする活動を行うことができる。さらに、ChinaとCanadaの勘違いや、rightとleftの勘違いなどを避けさせるために、日頃から集中して学習活動に取り組みさせることが大切である。例えば、自分の考えなどを明確にするために、自分の作った文やスピーチについて、他の生徒から質問してもらったり、設問の答えを文中で確認させる機会を設けたりすることも一つの方法である。

